丸善雄松堂株式会社 ［企画開発統括部］〒104-0033 東京都中央区新川 1-28-23 TEL:(03)6367-6025/ kenkyushien@maruzen.co.jp

2025 年 11 月刊行予定

社会文化史データベース

「明治仏教史編纂所」旧蔵 明治期に発行された重要かつ稀少な仏教雑誌 1,000 冊以上を収録

近代仏教稀少雑誌コレクション

原本：神田寺所蔵（慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫寄託）
監修・解題：大谷栄一（佛教大学教授）

全三部 ￥900,000〔税別〕

明治期に発行された重要かつ稀少な仏教雑誌 1,000 冊以上を横断的に利用できるデータベース。

明治時代、廃仏毀釈の影響等から仏教に関する議論が盛んに行われ、全国で相次いで雑誌が創刊された。昭和初期に「明治仏教史編纂所」を設立した友松円諦（1895-1973）は、明治仏教をたどるうえで極めて重要なこれらの文献の散逸を防ぐため、全国の寺院に協力を仰ぎ、資料の蒐集にあたった。こうして、宗派を超えた唯一無二のコレクションが誕生したのである。

この度、本コレクションから、国立国会図書館にもまとまって所蔵がない巻号を中心に 1,000 冊以上をデジタル化。雑誌名、巻号、発行年月、見出し、執筆者等での横断検索を可能とする。多彩な執筆陣による論説、各宗派や寺院の動向を伝える雑報や写真等、膨大な記事にスムーズにアクセスできるようになる。仏教研究はもとより、宗教学、思想史、民俗学、出版文化史、近現代史など、複数の分野で必備のデータベースである。

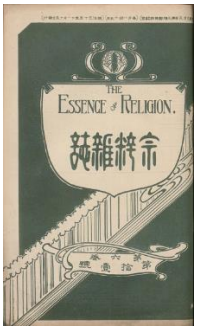
J-DAC「社会文化史データベース」に搭載し、「日本心霊」他、既存の稀少雑誌コレクションとの横断検索も可能。

【収録予定誌／分売構成】

第一部 通宗派関係（1）、浄土宗関係、曹洞宗関係 300,000 円（税別）
「崑山片玉」（明教社）、「能潤会雑誌」（能潤会事務所）、「宗粋雑誌」（宗粋社）、「信仰界」（浄土宗伝道会）、「縁山」（増上寺文書科）、「和融誌」（和融社）

第二部 通宗派関係（2）、浄土真宗本願寺派関係、天台宗関係 300,000 円（税別）
「同胞」（布哇仏教青年会）、「教学論集」（無外書房）、「伝道会雑誌（伝道新誌）」（真宗青年伝道会）、「三宝叢誌」（令知会）、「四明余霞」（比叡山延暦寺文書課）、「天台」（天台発行所）

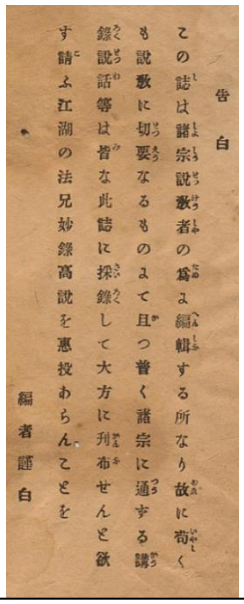
第三部 通宗派関係（3）、真宗大谷派関係、その他 300,000 円（税別）
「諸宗説教案内誌」（明教社）、「通俗仏教」（光融館）、「仏教」（仏教学会）、「貫練叢誌」（貫練会）、「貫練」（尋源会雑誌部）、「十善宝窟」（十善会）



出版・発売：丸善雄松堂株式会社

J-DAC について *完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）
*機関契約のデータベースです（ご所属の異動等によりデータベースのアクセス権を移籍することはできません）。
お申し込みは学術機関に限ります。

発行年月日、見出し、執筆者等で検索可能、膨大な記事に自在にアクセス

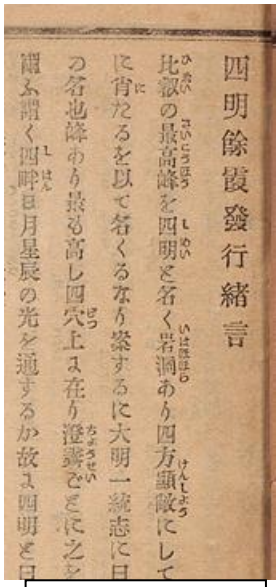


告白

この誌は諸宗説教者の爲め編輯する所なり故に苟くも説教に切要なるものゝ且つ普く諸宗に通ずる講録説話等は皆な此誌に採録して大方に刊布せんと欲す請ふ江湖の法兄妙録高説を惠投あらんことを

編者謹白

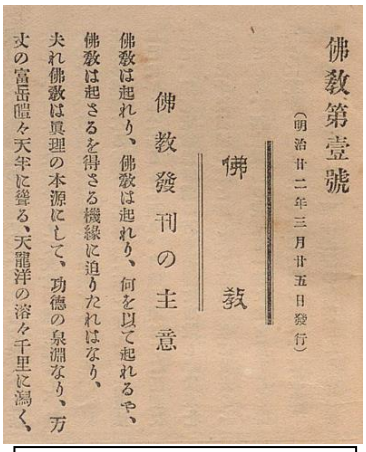
「諸宗説教案内誌」第１号
（明治 13 年３月）



四明餘霞發行緒言

北叡の最高峰を四明と名く岩洞あり四方顯敞にして
に肖たるを以て名くるなり案するに大明一統志に日
の名也峰あり最も高し四穴上に在り澄澈ゝとして之を
謂ふ謂く四時日月星辰の光を通ずるか故に四明と日

「四明余霞」第１号
（明治 21 年１月）



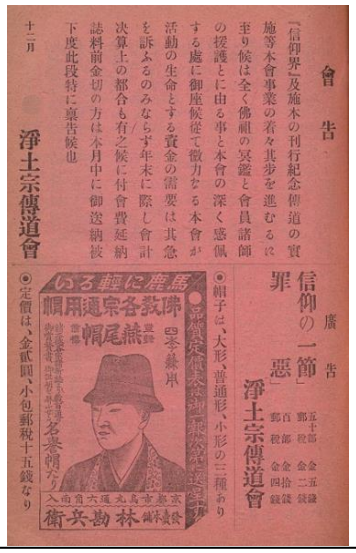
佛教第壹號

（明治廿二年三月廿五日發行）

佛教發刊の主意

佛教は起れり、佛教は起れり、何を以て起れるや、佛教は起さるを得さる機縁に迫りたれはなり、夫れ佛教は眞理の本源にして、功德の泉淵なり、万丈の富岳曜々天半に聳る、天龍洋の溶々千里に瀉く、

「仏教」第１号（明治 22 年３月）



會告

「信仰界」及施本の刊行紀念御道の實施等本會事業の着々其歩を進むるに至り候は全く佛祖の冥鑑と會員諸師の援護とに由る事と本會の深く感佩する處に御座候從て微力なる本會が活動の生命とする資金の需要は其急を訴ふるのみならず年末に際し會計決算上の都合も有之候に付會費延納誌料前金切の方は本月中に御送納被下度此段特に稟告候也

十二月　淨土宗傳道會

廣告

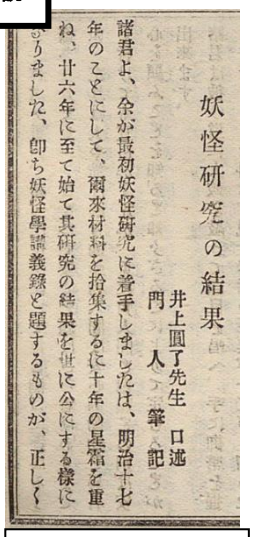
信仰の一節「罪惡」　淨土宗傳道會

◎細字は、大形、普通形、小形の三種あり

◎定價は、金貳圓、小包郵税十五錢なり

佛教各宗通用帽　四本絲串　絲尾帽

「信仰界」2 巻 12 号（明治 36 年 12 月）

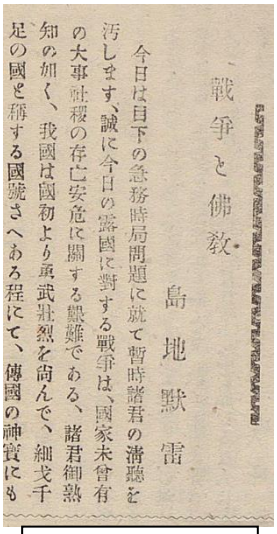


妖怪研究の結果

井上圓了先生口述
門人筆記

諸君よ、余が最初妖怪研究に着手しましたは、明治十七年のことにして、爾來材料を拾集するに十年の星霜を重ね、廿六年に至て始て其研究の結果を世に公にする樣になりました、即ち妖怪學講義録と題するものが、正しく

「四明余霞」119 号
（明治 30 年 11 月）

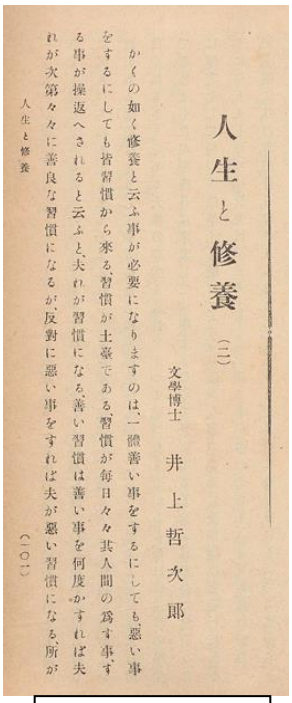


戰爭と佛教

島地默雷

今日は目下の急務時局問題に就て暫時諸君の清聽を汚します、誠に今日の露國に對する戰爭は、國家未曾有の大事社稷の存亡安危に關する繁難である、諸君御熟知の加く、我國は國初より勇武壯烈を尚んで、細戈千足の國と稱する國號さへある程にて、傳國の神寶にも

「四明余霞」200 号
（明治 37 年８月）



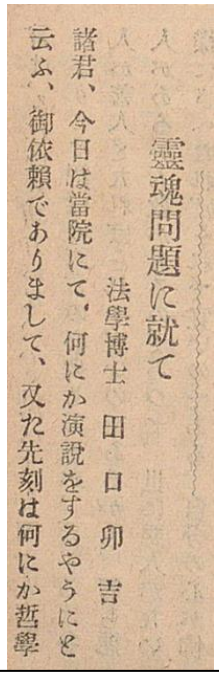
人生と修養（二）

文學博士　井上哲次郎

かくの如く修養と云ふ事が必要になりますのは一體善い事をするにしても惡い事をするにしても皆習慣から來る習慣が主臺である習慣が毎日々々其人間の爲す事する事が操返へされると云ふと夫れが習慣になる善い習慣は善い事を何度かすれば夫れが次第々々に善良な習慣になるが反對に惡い事をすれば夫が惡い習慣になる所が

人生と修養　（一〇二）

「和融誌」16 巻２号
（明治 45 年２月）

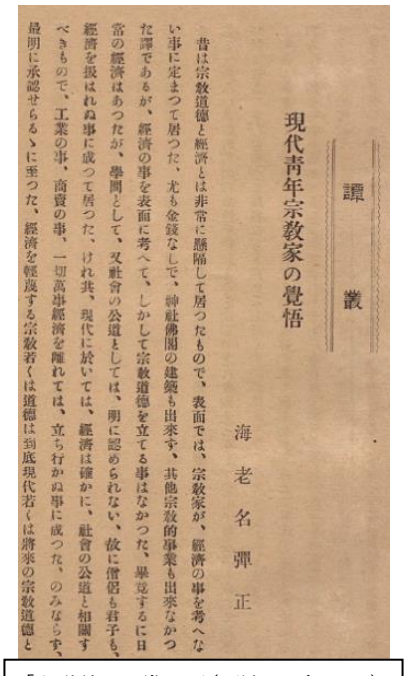


靈魂問題に就て

法學博士　田口卯吉

諸君、今日は當院にて、何にか演説をするやうにと云ふ、御依頼でありまして、又た先刻は何にか哲學

「宗粋雑誌」第 48 巻
（明治 34 年１月）



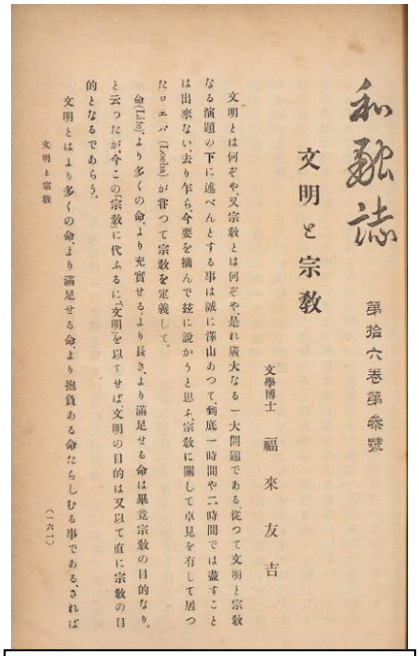
論説

現代青年宗教家の覺悟

海老名彈正

昔は宗教道德と經濟とは非常に懸隔して居つたもので、表面では、宗教家が、經濟の事を考へない事に定まつて居つた、尤も金錢なしで、神社佛閣の建築も出來ず、其他宗教的事業も出來なかつた譯であるが、經濟の事を表面に考へて、しかして宗教道德を立てる事はなかつた、畢竟するに日常の經濟はあつたが、學問として、又社會の公道としては、明に認められない、故に僧侶も君子も、經濟を扱はれぬ事に成つて居つた、けれ共、現代に於いては、經濟は確かに、社會の公道と相關すべきもので、工業の事、商賣の事、一切萬事經濟を離れては、立ち行かぬ事に成つた、のみならず、最明に承認せらるゝに至つた、經濟を輕蔑する宗教者くは道德は到底現代若くは將來の宗教道德と

「和融誌」13 巻８号（明治 42 年８月）



和融誌　第拾六巻第參號

文明と宗教

文學博士　福來友吉

文明とは何ぞや又宗教とは何ぞや是れ廣大なる一大問題である從つて文明と宗教なる演題の下に述べんとする事は誠に澤山あつて到底一時間や二時間では盡すことは出來ない去り乍ら今要を摘んで玆に說かうと思ふ宗教に關して卓見を有して居つたロエルバ（Roeder）が嘗つて宗教を定義して、

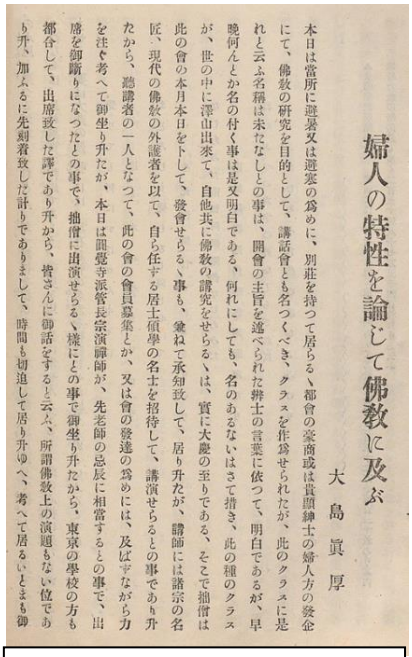
命（Leben）より多くの命、より充實せる、より長き、より滿足せる命は畢竟宗教の目的なり、

と云つたが今この宗教に代ふるに文明を以てせば文明の目的は又以て直に宗教の目的となるであらう、

文明とは一より多くの命より滿足せる命より抱負ある命たらしむる事であるならば

文明と宗教

「和融誌」16 巻３号（明治 45 年３月）



婦人の特性を論じて佛教に及ぶ

大島貞厚

本日は當所に避暑又は避寒の爲めに、別莊を持つて居らるゝ都會の豪商或は貴顯紳士の婦人方の發企にて、佛教の研究を目的として、講話會とも名づくべき、クラスを作爲せられたが、此のクラスに是れと云ふ名稱は未だなしとの事は、開會の主旨を述べられた幹士の言葉に依つて、明白であるが、早晩何んとか名の付く事は是又明白である、何れにしても、名のあるないはさて措き、此の種のクラスが、世の中に澤山出來て、自他共に佛教の講究をせらるゝは、實に大慶の至りである、そこで拙僧は此の會の本月本日を卜して、發會せらるゝ事も、兼ねて承知致して、居り升たが、講師には諸宗の名匠、現代の佛教の外護者を以て、自ら任ずる居士碩學の名士を招待して、講演せらるとの事であり升たから、聽講者の一人となつて、此の會の會員募集とか、又は會の發達の爲めには、及ばずながら力を注ぐ考へで御坐り升たが、本日は開覺寺派管長宗演禪師が、先老師の忌辰に相當するとの事で、出席を御斷りになつたとの事で、拙僧に出演せらるゝ樣にとの事で御坐り升たから、東京の學校の方も都合して、出席致した譯であり升から、貴さんに御話をすると云ふ、所謂佛教上の演題もない位であり升、加ふるに先刻着致した計りでありまして、時間も切迫して居り升ゆへ、考へて居らるゝとも御

「信仰界」2 巻５号（明治 36 年５月）

海外布教

通信

ホノルヽだより

四月廿四日稿

▲本月一日帝國練習艦隊は阿蘇を旗艦とし伊地知少將司令官として坐乘し、宗谷と共に舳艫相銜んで當港に入り候我同胞は此壯麗に接し欣喜に堪わず碇泊十日間滿腔の誠意を以て歡迎の意を表し候。

左に其概況を記し候

△當ホノルヽに在りては各方面の團体及有志に依りて帝國練習艦隊歡迎會なるものを組織し事務所を設け、委員部署を分つて十數日來其準備に汲々して歡迎方法を定め候

「同胞」開教十週年記念号(明治 39 年 10 月)、第 10 年第 5 号(明治 42 年 5 月)

講演

歐米各國に於ける宗教の傾向

鈴木大拙

左の一篇は去る五月十五日本校に於て同氏の歡迎會を開きたる時講演せられたる大要を筆記せる物にして、未だ同氏の校閲をへざる物なれば文責悉く記者に在り

* * * * * *

會長初め聽衆諸君、私の今日述べたいと思ふのは、あちらに滯在してる間に於て、見たり聞いたりした西洋人の佛教に對する考と、又將來如何に發達するか、又如何なる運命を有して居るかといふ事でありますが、それを述べる前に當つて、西洋に於ける宗教界の狀態を述べて置く必要があらうと思ふのであります。

「和融誌」13 巻 7 号(明治 42 年 7 月)

歐米に於ける佛教の發達

英人　チャーレス、エフホウエル

方今歐米に於ける佛教の發達を辨せんとするに、先づ佛教が東洋より西洋に傳播せし所由を辨せざるべからす、往昔何れの時代なりしやは確かならざれども、佛教が亞弗利加大洲と亞細亞大洲との地峽なる「スエス」を越て埃土に進入したるあとは、其時代に係る埃土の古き堂宇及び石碑に刻みある記文等に依て知るあとを得べきなり

「仏教」第 49 号(明治 25 年 7 月)

◎ブラジルに於ける日本僧侶

其の顏貌は日光に晒らされて一見銅色の如くなるも其の風采は優に幾多の障煙蠻霧と戰ひ來たりしを察するに足るべしとは即ち是れ南米ブラジルに於ける日本僧侶なりとて近刊の外國雜誌に載する處なり彼ほ身に華麗ならざる法衣を着し念珠を爪操り熱心に佛陀

「信仰界」第 1 巻 9 号
(明治 35 年 9 月)

予輩の朝鮮開教策

戸倉隆門

朝鮮問題は年と共に迫れり彼れが獨立の扶植は我政府のみに委すべからず彼れが獨立を扶植して東洋の波瀾を永遠に鎮伏せんと欲せば必ず佛教家に任せずんばあらず由來朝鮮國民は遺傳的に我國を敵視する狀あり蓋し神功皇后の三韓征伐を初めとし豐臣秀吉の朝鮮征伐の如き彼れが生命を奪ひしこと幾何ぞ彼れが財寶を捕獲せしこと幾何ぞ然のみならず德川家康覇を唱するに至てや天下太平に歸し將士の餘勇漏すべき餘地なく遂に朝鮮沿岸を襲ひ彼の國民をして倭寇或は倭鬼の名を永く記憶せしむるに至れり茲を以て彼國民は我邦を視ること實に脣齒の關係あるに

「宗粋雜誌」42 巻(明治 33 年 7 月)

特別廣告

大會に就て豫め告ぐ

本會は前途幾多の希望を有し將來大に爲す所あらんとす進取的傳道上内地に於ける方法は云何、海外に於ける手段は云何、刷新的傳道上教義に於ける應用は云何、歷史に於ける追究は云何、這般幾多の問題は本會々員たる者が須らく研討諮詢して宗教界に於ける輿論の師導となり鵬翼雄飛して社會を救護せんとを期すべし翌年明治廿八の春京都に於て吾傳道會員の全國大討議會を開かんとす今左に數項の議案を陳ねて豫め吾所在の會員に告ぐ但日時幷に會場及び詳細の手續は確定の上追て廣告すべし

第一　國家問題に對する運動の方針
第二　議員選擧に關する意見
第三　海陸軍布教の方法
第四　殖民地布教の方法
第五　佛陀伽耶聖蹟回復事件に對するの意見
第六　海外傳道の方法
第七　南北佛教聯合に就ての意見

九月

眞宗傳道會本部

社説

朝鮮並に陸海軍に對する布教の事に就て本山會衆の各位に望む

日清兩國の砲聲意烈しく四千万同胞の耳目擧て西天に向ふの今日に當り我大本山は全國の會衆を京都に召集し去る十五日を以て其開議式を行はれたり而して其議案として提出せらるべきもの布教に與學に其他重要なる大問題固より一にして足らざるべきも就中會衆各位が滿腔の熱血を注ぎ智囊の底を叩き切磨し扼腕し而も憤慨して討議せられざる可らざるものは朝鮮國並に我國陸海軍に對する布教の方法即ち是なり蓋し朝鮮國は日本佛教の先進國

「伝道新誌」7 巻 9 号(明治 27 年 9 月)

*収録内容は予告なく変更の可能性がございます。